

東日本大震災後、若年女性たちへの支援が行き届いていなかったことに気づき、2015年、同じ志をもつメンバーとともに、若年女性たちへの支援を中心に据えながら、全世代の女性たちが今感じている生きづらさや苦しさは何に起因しているのかなどを考え、自分らしい生き方を選択できる社会の実現を目指している。また、避難所運営には、男女共同参画の視点が必須であることからマニュアルを作成した。

男女共同参画の視点で考える ～被災地に生きる若年女性たちへの支援～

たばた や え こ
(一社)GEN・J代表 田端 八重子

被災地の女性たちの相談事業から見てきたもの

阪神・淡路大震災時の経験から、女性たちの相談窓口が重要と考え国の事業を受託、相談事業を展開した。電話相談には、生き方、家族・夫婦関係、仕事、暴力(DV・デートDV・セクシュアルハラスメント・ストーカー・性暴力)などが寄せられた。その中には、若年女性からの声も届いていた。

被災から3年半が経過したある日、現地で出会った女子高校生から聞き取った内容に衝撃を受けた。それは、帰宅・散歩途中の女性たちや小・中・高からの下校途中の女子児童・生徒たちに、車の中から声がけや遊びへの誘いが急増したということであった。話してくれた彼女は、よほど怖い思いをしたのか、顔が少し青ざめているように感じた。この事案は、学校、教育委員会、家庭への通知文、警察、地域の防犯係などが連携、巡回や注意喚起などを実施。事態は大事に至らなかったということであった。

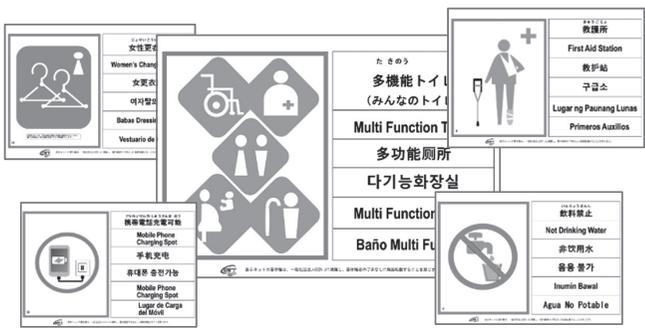
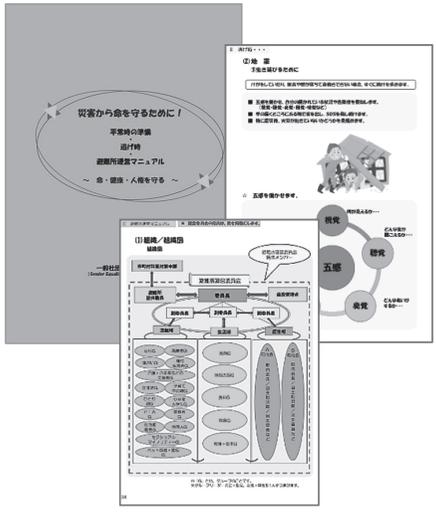
これらのことから、若年女性たちへの支援の手薄さを実感。2015年4月から国の事業である「よりそいホットライン専門ライン若年女性支援事業『10代20代女の子の専門ダイヤル』」を受託。被災地3県の岩手、宮城、福島で電話相談とSNSグループチャット相談を実施している。

被災地若年女性たちから寄せられる声と今後への課題

若年女性支援事業を実施する中で、多くの若年女性たちは想像以上に厳しい現実を抱えていた。進学や就職など将来にかかる重要な問題に直面。相談したい親は生活や自立再建などで東奔西走。そういう親たちを見て「自分のことは後回しでいい」と考えたり、家計の厳しさから進学の夢をあきらめた女性たち。大学や専門学校に進学した友人たちはキラキラ輝いて見え、「取り残され感」を抱いた女性たち。家事・介護などの理由で都市部から地元へ呼び戻された女性たちなど、被災後の社会のうねりに埋没させられ、やり場のない悔しさやつらさをにじませる。

震災から8年、復興が進み、生活も落ち着きを取り戻しつつある今、女性たちは今後の人生設計を突き付けられている。地元で働きたいが職場が少ない、都会での再就職を求めても、一旦仕事から離れると復帰は容易ではないなど、行き場のない状況が現実となって彼女たちの肩にのしかかっている。

若年女性たちへの支援は寄り添い型支援が重要であり、さまざまな情報を提供しつつ、自立への道をとともに探っている。



男女共同参画の視点を取り入れた「避難所運営マニュアル」(左)と「避難所表示キット ピクトグラム」(右)。ピクトグラム(絵文字)の横には、日本語のほか、英語、中国語、韓国語、タガログ語、スペイン語で、意味がわかりやすく表示されている。

どこで断ち切るか、社会の中の暴力を！

若年女性たちは、今の社会を「生きづらい社会」と口にする。女性であるがゆえに一人の人間としてではなく、誰かの付属物として扱われたり、性の対象として、容姿や年齢であからさまに貶められることがある。また、常に「完璧な女性」が賛美され、要求に応え切れない女性たちは、「ダメな私」と自分を責める。女性たちが分断され、差別や偏見、商品化と搾取が付きまとう。これらは、女性に対する暴力以外のなにもでもない。

このジェンダーの縛りは、「社会」というつかみどころのない中で抑圧となって覆いかぶさる。特に性暴力の被害当事者である女性たちは、誰にも言えない、しかし、言わなければ同様の被害がなくなると声にすると、かえって傷つき、孤立感や無力感に押し潰される。暴力を容認・温存し、女性への差別・偏見を増長する社会。若年女性たちの生きづらさの要因は、ここにもある。

暴力を断ち切るためには、被害当事者の権利回復とその連鎖を断ち切るための法整備が不可欠である。地続きにいる女性たちが、その痛みを共有することができる #MeToo 運動を拡散し、声を上げ続けていくこと、そして、声を上げやすい環境整備こそが社会の責務である。

今こんなことやってます！

- よりそいホットライン専門ライン「10代20代女の子の専門ダイヤル」(被災地：岩手・宮城・福島が対象)
- 「避難所運営マニュアル」発刊(有料) 男女共同参画の視点を取り入れ、外国の方が来られても困らないように5カ国語で表示。これらを活用した講演会、学習会、ワークショップ、ワールド・カフェに講師を派遣。
- 女性相談相談員及び行政担当者の研修事業 NPO 法人女性人権機構との共催で実施。性暴力やDV、セクハラ被害者支援プログラムなどの専門家による研修会(岩手・秋田・青森)。<以下は、岩手県日程、秋田・青森はHP参照> 日時：9/30(月)、10/1(火)10:30~16:30 会場：(一社)GEN・J会議室 講師：ミシェル・ノバコースキイさん(通訳有) 資料代：1,000円

■ #MeToo：開催は適宜実施



2018年の相談員・行政職員研修にて

DATA

- 代表：田端八重子
- 設立：2015年3月27日
- TEL：019-681-1610
- E-mail：info@genj.jp
- HP：http://www.genj.jp